

北海道は、

なまら好き。

沖縄は、

でーじ好き。



※「なまら」「でーじ」、吹き出しの中のことばはすべて「すごく」の意

ことばのちがいや変化から  
何が見えてくる？  
中力先生、教えてください。

日本では江戸時代まで地域ごとに  
多様なことばが息づいていました。

このようなことばをまとめ、いわゆる標準語への統一が  
図られたのは明治以降です。国民をまとめ、

近代化を推し進めるために国語を教育するだけでなく、  
各地域では方言撲滅運動も展開されました。

たとえば沖縄では「方言札」というものがあり、  
学校で子ども同士が互いを監視し、方言を使った子は

罰札を首から下げさせられました。このように標準語へ  
統一すること、さらには国旗や国歌といったシンボルを

通じ、人々の間に「日本」「日本人」という共通の意識、  
イメージがつけられていったのです。

今では、TVドラマで方言がよく使われるようになり、  
またそれを自分でも口にすることがありますよね。

方言に親しみをを感じる人が増えた日本社会の変化は  
興味深い現象です。ことばといった身近なものから

社会を見つめ直すこと、多様性を認める社会を  
考えることもできますね。

現代社会学科  
准教授 中力えり



和光3分大学

推薦制入試  
(公募制)  
出願受付中

出願期限

11/11 (金)必着 11/19 (土)または 20 (日)

試験日

推薦制入試合格者も特待生選抜に挑戦可能に!

一般入試を間近に控えた受験生向けに

12/3 (土)

特待生選抜対策講座  
入試相談会【要予約】  
芸術学科の実技教室

一般入試、センター試験利用入試の出願は、

1/4 (水)開始

WEB出願

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から徒歩約15分  
<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学